私たちはビーフライを応援します。



ビーフライ応援マスコットキャラクター
【ひろずきんちゃん】です。
どうぞよろしくお願いします。

ビーフライ・マゴットセラピーを応援している関連機関・団体・関係者（五十音順）

【マゴットセラピー】関連機関
磯川 薫（三康病院グループ　看護部）
岡田 匡（マミ皮フ科クリニック）
小阪 健一郎（京都府立医科大学　皮膚科）
竹内 一馬（医療法人たけうち　六本松　足と心臓血管クリニック）
竹本 啓伸（つがる総合病院　皮膚科）
西嶌 暁生（筑波大学　形成外科）
東田 隆治（横浜総合病院　心臓血管センター）
星　亨（東大和病院　整形外科）
三井 秀也（ツカザキ病院　心臓血管外科）
山本 員久（三康病院　泌尿器科・透析科）
吉田 桂（JA新潟厚生連豊栄病院　整形外科）

【ビーフライ】関連機関
奈良県農業研究開発センター
吉田 裕一（岡山大学）

【製造・販売】
（株）ジャパンマゴットカンパニー

【販売】
アピ（株）

その他たくさんの関係者の皆様の応援でビーフライ事業は支えられています。

この施設では受粉にビーフライを利用しています。



Q. ビーフライってなに？

ヒロズキンバエというハエを用いた作物受粉サービスです。



Q. なぜビーフライを利用するの？

受粉用昆虫の大先輩、ミツバチやマルハナバチが苦手とする、雨天・曇天時や、冬の低温～夏の高温環境でも活躍し、なにより人を刺す心配がありません。

「ビーフライ」を利用することで、安心・安全で安定的な作物受粉を実現します。



Q. ビーフライは安心・安全なの？

“ハエ”と聞くとあまり良いイメージはないかもしれませんが、この「ビーフライ」は、もともとは「マゴットセラピー」と言う医療で利用されているハエなのです。

大変クリーンな環境で生産されており、ヒロズキンバエ自体に不快なにおいや病気の媒介といった心配はありません。



Q. ビーフライを応援するってどういうこと？

日本では医療用のヒロズキンバエを安定的に生産できる施設はほとんどなく、「ビーフライ」の普及が「マゴットセラピー」用のヒロズキンバエの安定供給にもつながるため、医療業界からも大変期待と注目されている資材なのです。

農業でのビーフライ利用が医療業界への貢献にもつながっていきます。